

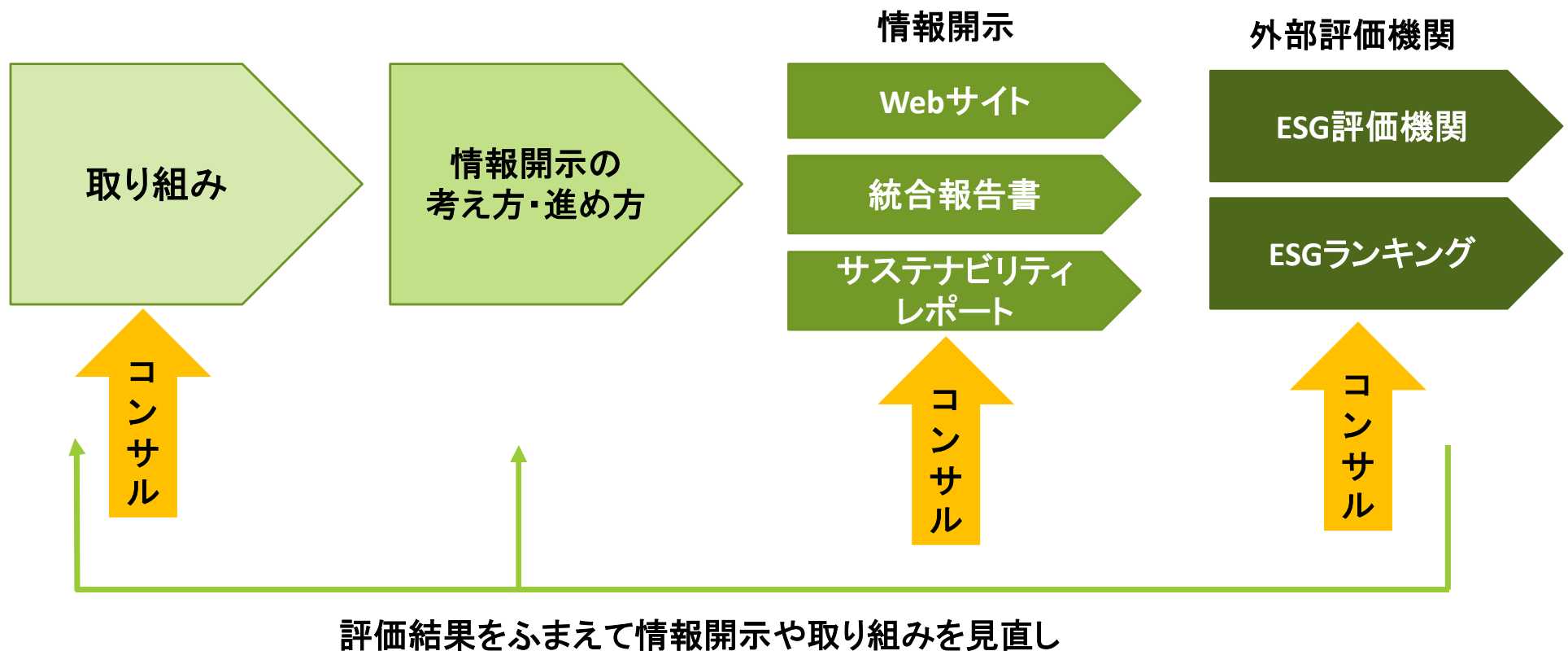
Bグループ「社外評価とレポーティング」発表

2024年3月8日



今期の活動内容

| 開催日 | テーマ | オフ会 |
|----------|---|---------------|
| 5/12(金) | 自己紹介・興味あるテーマについて | |
| 6/9(金) | 年間計画・分担決定 | |
| 7/14(金) | 情報開示の考え方・進め方 | ★ |
| 8/18(金) | コンサル活用 | |
| 9/15(金) | サステナビリティWebサイト | ★ |
| 10/13(金) | 統合報告書/サステナビリティレポート | |
| 11/10(金) | 外部評価機関 1回目 | ★ |
| 12/15(金) | 外部評価機関 2回目(大阪会) | |
| 1/12(金) | 情報開示振り返り・来期の予定 | Aグループと合同 ★ |
| 2/9(金) | 「サステナビリティ経営と戦略的情報開示のススメ」ディスカッション・発表役割分担 | |
| 3/8(金) | 全体発表の準備 | ★ |

テーマ：取り組み～評価までの流れを議論



意見交換時の主なポイント（情報開示）

| 主な論点 | 意見交換の要旨と事例紹介 |
|--|---|
| 情報開示の考え方 | 情報開示の 目的はステークホルダーの理解を得ること 。まずは ターゲットと目標 を明確にする。各社ごとにターゲットは異なる（ESG評価機関、投資家、業界団体、マルチステークホルダー（最近は就活生も）が、 中長期的な企業価値向上の実現 に向けて情報開示を進めていることは共通。 |
| 他部署・経営陣の巻き込み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営層や各部門長が参加する会議や委員会で、外部評価の状況や投資家からのコメントを紹介し、自社の立ち位置や弱い点を認識してもらい、改善したいポイントを周知。 |
| レポート、サイトのすみ分け  | <ul style="list-style-type: none"> ・ サイト：サステナビリティ関連情報を網羅的に開示、最新情報も都度開示。（ヒートマップ分析なども活用）。 ・ 統合報告書：メインは投資家とのコミュニケーションツール。 価値創造ストーリーに沿って、財務・非財務情報を統合して報告。 ・ サスレポ：サイトをPDF化している企業多数。 (EcoVadisへの対応※添付ファイル数に制限があるため) |
| ホットトピックの対応  | <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動：TCFDは1回目開示を終え、今後は財務インパクト(定量的)を含めた見直しが必要。 ・ 生物多様性：年度初は情報収集→年度末にはTNFD賛同検討・生物多様性方針を策定した企業も。 ・ CSRD：2024年度本格的に対応準備、ダブルマテリアリティへ移行準備。 ・ EcoVadis：欧米のみならず日本からもスコアアップ要請が高まっている。 ・ PBR1割れへの対策：非財務資本の中核を成す人的資本の可視化。 定量的に示すことは難しく課題が残る。 |

意見交換時の主なポイント（外部評価機関）

| 主な論点 | 意見交換の要旨と事例紹介 |
|-------------|---|
| 回答体制 | <ul style="list-style-type: none"> 各社とも限られたリソースでの対応であり、効率化は必須 ESG評価機関の対応はサステナ部門等、気候変動関連調査票（CDP等）は環境部門が回答するケースが多数 |
| 外部評価機関の優先順位 | <ul style="list-style-type: none"> 各社ごと目的に応じた評価機関対応を実施(機関投資家・取引先・マルチステークホルダー) 共通してCDP・FTSE・MSCIは実施する企業が多数（気候変動情報の要求、GPIFの重視） 国内評価機関は、経営層の意向・自社PRの効果を考慮しつつ各社で対応を判断 評価機関の優先順位判断は、各社で経営会議決裁・部門決裁など異なる |
| スコアアップのノウハウ | <p>(自社)</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価機関のメソドロジーの正確な理解 評価機関ごとに傾向を理解し、それに応じた対策を実行 不明点は評価機関へ直接問い合わせて解決することが可能 <p>(外部の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> EcoVadisでは、有料で回答サポートを得ることが可能 特に重要な評価機関に絞って、コンサルを活用する会社も多数 |
| 効率的な管理・反証 | <ul style="list-style-type: none"> Excel管理のほか、共有フォルダやOffice365・Microsoft Teamsの活用 (外部コンサル活用により)複数のアンケート結果を集約することで管理効率化を実現 社内イントラで調査票回答を公表し、回答担当者がいつでも確認できる体制を構築 |
| 社内での巻き込み | <ul style="list-style-type: none"> 評価結果を各部門・経営層へフィードバックして、正しい現状認識と今後何をしていくかのストーリーづくりが重要 |

参加者の声

社内を説得するのに便利な先進事例を多数拾えた。

みなさまの深い知識と高い意識に刺激され大変勉強になった。

他社の具体的な取り組みや業務委託をしているコンサルの情報など、開示資料からは得られない内容まで聞けて大変助かった。



「皆さんここまで突き詰めて対応されていらっしゃるんだ」と尊敬の念も抱き、自身のモチベーションにもつながった。

分からないことを質問させてもらおうと本当に丁寧な回答やコメントをいただき感謝している。

自社内では良いアイデアが浮かばないことも、皆さまに経験談や、アドバイスをいただくことで新しい目線で考えることができた。

社内では理解してもらえないような悩みも、グループの皆さまにはご理解いただけたり、さらにアドバイスをいただけたりしたことは、とても励みになった。